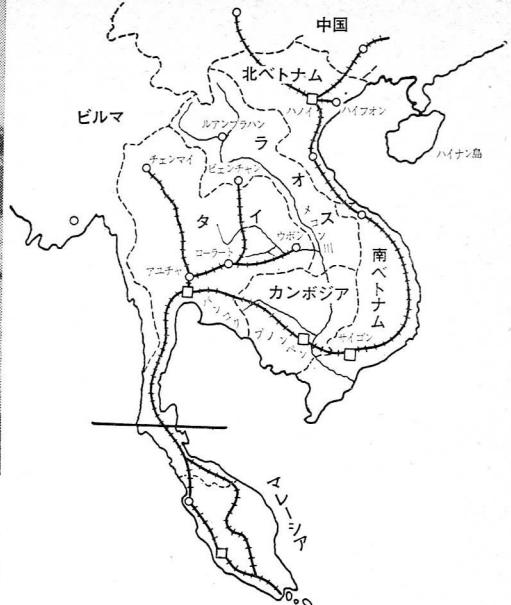


ラオスの農業



藤原昇

(一)はじめに

筆者は一九六六年十一月から一九六八年十二月までの二年間、東南アジアの低開発国といわれているラオスに渡り、国立畜産試験場勤務を中心に、畜産及び飼料作物の技術指導に従事して来た。まだ十分に報告された事のない国だけに、現地に行く前は一抹の不安はあったが、一度現地に渡つてみると果たして想像以上のものがあり、十分なる指導も研究も出来なかつたけれども、日本とは異なり「熱帯の畜産」という新しい観点から家畜(畜産)をみる事が出来た。この事は、今後に役立つことが大きいと考えている。畜試では「ラオスに適する豚の育種」と「飼料作物(牧草)の育成」の問題を中心研究を進めて来たが、二年間では、どうする事も出来ず、仕事が緒についた頃には帰国という事で、十分なる検討も出来ず非常に残念であったが、今後これらの問題について研究を進めて行く考え方である。

従つてラオスについてなど、何も語る資格はないけれども、二年間、現地で見たり、聞いたりした事について、浅学菲才もかえりみず、ここに馴文を記して諸方の御批判を仰ぎ度く存じます。

(二)ラオスの一般事情

時折、新聞をにぎわすラオスについて簡

單に説明する

○地理……面積は二三万六、八〇〇平方

キロで、日本の本州にほぼ等しい。国土は南北に長く、ベトナム、カンボジア、タイ、ビルマ、中国に囲まれた内陸国である。チベットに発する四、二〇〇キロの大河メコン河は、ビルマ国境全部、タイ国境の大部分を形成している。気候は雨季(五~九月)と乾季(十~四月)に大別され、雨量は年間は年間平均二、〇〇〇ミリである。雨期の間の平均温度は二七度(東京の七月の温度にほぼ等しい)、一月の平均温度二〇度で三月から五月までは雨が降らず最ものがぎ難い季節である。

○住民……一九六七年三月の統計局の推定人口は二七〇万人である。首都ヴィエンチャン市の人口は一三万二、〇〇〇人で、内ラオス人も九万六、〇〇〇人で、外国人三万六〇〇〇人となっている。王都ルアンプラバン市の人口は四万二、〇〇〇人である。又北部ラオスには種々雑多な民族が居住している。タイ族、インドネシア系原住民、中国系、チベット系の民族が住んでいる。特にタイ族は全人口の六割を制し、ラオスは十世紀頃から西南より南下しメコン河及び平地に居住するに至った民族でラオスで支配的な地位を占めている。

○言語……ラオ族がシャム族と姉妹民族である関係上、ラオス語はタイ語の姉妹語ではない。外国语としては、ベトナム語、中国語等があるが、フランス語が重要な地位を占めており、英語は最近普及しつつある。

が、まだまだである。

(三)ラオスの経済事情

フランス時代には錫開発及びコーヒー栽培に若干資本が投下されたのみ。その後は内戦で平和に恵まれず、その開発は最も遅れている。以前は自給自足が可能だった米もタイから輸入している状態である。

政府予算の半分以上は軍事費であり、然も予算の三分の二が赤字である(外国援助で賄われている)。従つて外國援助が多く、大部分の国民はほぼ自給自足の生活をしており、米が不足といえども、飢えるということからは程遠く、数字が示す程には情勢は深刻ではない。目下食料増産計画(五年計画)、ナムグム・ダム建設(日本の間

第1表 ラオスの政府予算

(単位100万キップ)

	1965	1966	1967	1968
収入	4,700	4,536	6,108	7,400
支出	10,300	14,936	15,408	16,085
赤字	5,600	10,400	9,300	8,685

(1キル=240キップ)
(単位100万キップ)

第2表 ラオスの輸出入関係

	1964	1965	1966
輸入(金を除く)	6,024	7,893	10,531
金輸入	5,083	20,709	30,109
輸出	213	240	261

組施工中)が進められており、地下資源の

開発の可能性等を考え合わせると、今後少
低下が著しく、全く不振の状況である。

ラオス人は糯を主食としているが、軍隊

の増加により毎年五万トン程をタイ国より輸れる。ラオスの政府予算を示すと第一表の

如くである。一方、ラオスの貿易関係をみ

ると第二表の通りである。主要輸入の品目

は、米、ガソリン、車、オートバイ、鐵維

製品、機械、加工食品等である。日本は、

製品機械が一貨物、日本にタゞ、米国を次ぐ第三の輸入国である。一

六目に次、第三の轉じ國では、

方 輸出品目は 錫 安息香 ブラシ等

ヒリカルタモン等でジンガボーリ
トモニラ、输出してへる。

香港に多く輸出されている

四) ラオスの産業

卷之三

○農業……煙草工場や、ゴム、サンタル

工場程度しかないラオスでは、国民の九〇

%以上が自給自足的農業に従事していく極めて原始的な農法に依存していることと、

(四) ラオスの産業

組施工中)が進められており、地下資源の開発の可能性等を考え合わせると、今後少しずつ経済正常化が進行するものと考えられる。ラオスの政府予算を示すと第一表の如くである。一方、ラオスの貿易関係をみると第二表の通りである。主要輸入の品目は、米、ガソリン、車、オートバイ、繊維製品、機械加工食品等である。日本は、タイ、米国に次ぐ第三の輸入国である。一方、輸出品目は、錫、安息香、木材、コーキー、カルダモン等でシンガポール、タイ、香港に多く輸出されている。

内戦に基困組施工中)が進められており、地下資源の開発の可能性等を考え合わせると、今後少しずつ経済正常化が進行するものと考えられる。ラオスの政府予算を示すと第一表の如くである。一方、ラオスの貿易関係をみると第二表の通りである。主要輸入の品目は、米、ガソリン、車、オートバイ、繊維製品、機械加工食品等である。日本は、タイ、米国に次ぐ第三の輸入国である。一方、輸出品目は、錫、安息香、木材、コーキー、カルダモン等でシンガポール、タイ、香港に多く輸出されている。

内戦に基困
低下が著しくなっている。
ラオス人の増加によ
入しているが、増産の計画
物統計表の内、コーキー
れていて国
○林業
林で覆わね

第3表 1966年の農産物統計表

	作付面積 ha	1 ha 当り トン	計 トン
米	888,950	0.85	727,100
トウモロコシ	43,200	0.50	20,520
棉 花	6,050	0.25	1,650
煙 草	6,500	0.61	3,900
コ 一 ヒ 一	6,000	0.67	3,480
砂 糖 キ ビ	700	3	2,100
落 花 生	720	0.7	500
茶	—	—	600
バ ナ ナ	—	—	5,000
オ レ ン ジ	—	—	1,000
パイナップル	—	—	600
マニヨック	—	—	500
馬 鈴 薯	3,000	4.6	14,000
サツマイモ	1,300	0.7	960

第4表 林產物統計表

	単位	1960	1963	1966
用材	m ³	36,400	48,000	77,000
薪	ヶ	57,500	40,900	63,100
木炭	トン	3,710	9,500	10,700
安息香	ヶ	13	4	13
ステックラック	ヶ	17	47	—
カルダモン	ヶ	5	6	—

(五) ラオスの農業

○稻作概要

ラオスに於ける主作は稻作である。

ラオスの農業

○畜産……ラオスの山岳地帯は村落様、家畜の飼育に適している。更に畜産はラオス経済にとって重要な産業であつて（国民一人につき牛又は水牛一頭を有する）将来性に極めて富んでいる。特に一九六〇年頃までは多くの家畜が輸出されていた。次にラオスに於ては、日本と比較にならない程肉を多く食用に供している。住民は殆ど連日の様に肉を副食として利用している（水牛、黄牛、豚、鶏が多く利用されている）。

第五章 助 索 飼 齒 頭 卷

	1961年	1963年	1966年
牛	344,100	368,600	477,100
水牛	642,900	688,700	729,800
象	1,650	1,650	1,660
馬	19,610	21,000	22,330
豚	882,800	905,100	979,400
家禽	8,453,400	9,142,300	10,104,200

第6表 家畜の屠殺頭数

	牛	水牛	豚
1960	7,612	37,870	63,538
1961	8,787	19,952	59,491
1962	12,119	19,586	73,766
1963	5,900	11,907	66,127
1964	4,992	13,303	67,673

する)田植の時期は、八月上旬～下旬頃、稲刈りは十月下旬～十一月上旬である。

無肥料栽培であるけれども大体草丈一三〇センチメートルとなり、一穂に三〇〇粒内外となり日本よりはるかに多いのである。品種は改良種でフィリピンから入ったもので優秀な稻である。

稻刈りは地上四〇～五〇センチの所より刈取り、残りの部分は牛、水牛を自然放牧の状態で採食させるのである。刈取った稻は株の上にのせておいたり又は稻積みをして乾燥させてから脱穀する。脱穀の方法は全く原始的方法で、手を用いて穀の上にたたきつけて落とすのである。人力により何日となく毎日毎日バタバタとたくさんのである。

常夏の国とはいえ年一回のみの稻作である。しかし一〇センチ当りの収量も極めて低く、新品種の導入なり、育成を十分に行なえば問題解決への糸口にもなろうし、更に灌漑の問題が解決されるならば年二～三回の稻作経営も可能である。現に首都ヴィエンチャンの北東二三キロ地点にある日・ラオス農牧実習センター（日本の援助による）に勤務するC・P専門家、佐藤技師は年四回の稻作に成功している。しかし、その割に収量が増大せず実用化は今一步である。

それは結局地力の不足によるものと考えられている。従って目下、日本の間組によつてダム（完成するとビワ湖の二分の一の広さといわれる）が建設されつつあるので、これが完成したならば豊富な水の利用によって、ラオスの農業は大きく変化するものと考えられる。

一方陸稻もラオスの農業の中でも極めて重要な地位を占めている。国有林は、即ち国民全てのものであり、誰が、どこで、如何に利用しても良いことになっている。従つて彼等は毎年毎年、所を変えて森林を焼き払い焼畑式によつて農作物を栽培しているのである。陸稻もかなり良い生育を示し、水田を持たぬ山間地の農民は専らこの陸稻によつて主食の糯を得てるのである。

○ 野菜作概要：

ラオスでは朝市における野菜の量は全く豊富に出廻っている。日本でみられるものは殆ど全て手に入る。しかしこれはラオス内で生産されるものは極僅かで、大部分が隣りの国タイから輸入しているのである。しかし栽培方法を改良して行くならば相当量の生産増加は期待される。

彼等の野菜作りは主として乾季に行なわれるのである。即ち十～十二月に播種して四～五月に収穫する。ラオスでは各農家は必ず一～二頭の牛を飼育しているし、かなりの農家になると十数頭を飼育していく、それらを毎日自然放牧の型で行なっているので、特に乾季は青草がなくなるので牛や水牛は農家の栽培している野菜をねらうの

である。従つて大部分の農家は写真に示した如く竹できれいに柵をめぐらして牛が入つて来れないようにしている。更に乾季は前述した如く土壤が固くなるので人力によつて大面積に栽培出来ず自分達の食べるに十分な量だけ、所謂家庭消費用を主目的に栽培しているのである（乾季に於ける土地の耕耘は大面積の場合トランクター以外は

使用不可能）。田舎を廻つてみると必ず自家用の野菜は庭先や附近の水分のありそぞ民全てのものであり、誰が、どこで、如何に利用しても良いことになっている。従つて彼等は毎年毎年、所を変えて森林を焼き払い焼畑式によつて農作物を栽培しているのである。陸稻もかなり良い生育を示し、水田を持たぬ山間地の農民は専らこの陸稻によつて主食の糯を得てるのである。

○ 果樹：

東南アジアは果樹の豊庫である。従つて半野生的に多くの果物が至る所でみられる。ラオスでは、どこの農家を訪れても庭先にバナナ、パイナップル、ペペイア、ヤシ等の木が必ず數本植えてあるのに気づく、そして山の中を歩いているとペイナップルの実をつけたりする事もあるし、ますます果物は栽培するというより、自然のまままで利用しているといつた方が妥当であるかも知れない。写真に示した如く、果物を本格的に栽培している農家も少なくない。斯様にラオスは大自然の豊庫であり、自然に恵まれすぎているのかもしれない。

又、果物とは別に、日本では見ることの出来ないような芳香性のある木の実が農家では至る所で多く口に入るのである。これらは正に自然の恵みそのものであり、彼等は労せずしてビタミンを豊富に与える事が出来る。一年中一日も休まずに、果物や木の実を食べることが出来るのである。

○ その他

農作物としては、その他に砂糖キビ、煙草、コーヒー、棉花、落花生等がかなりの面積にわたつて栽培されており農家の大きな収入源の一つである。砂糖キビは茎を切つて土中にうめて育成増殖させ、水利の良い所では大量の生産を行なつて、しかしながら生産物は加工する事は出来ず、茎をそのまま食用として利用しているにすぎない。

コーヒーは山間地（冷涼な土地で）大量に生産され、少量ではあるが国外に輸出されている状態である。特に南部ラオス（ベトナム、カンボジア国境附近）に多く産出される。従つてラオスではどんな田舎の小さな店に入つても、コーヒーだけは十分に飲む事が出来る。しかも良質のコーヒーをふんだんに利用するのである。

同様に棉花も南部ラオスに於て多く栽培されており国内で織物として、かなりの量が使用されている。同時に南部ラオスは農業の最適地であり、養蚕も盛んであり、ラオス人の整装は綿織物、しかも上等のものを身につけているのである。

又特殊なものとしては唐辛子があり、熱帯の国の人々は必ず食事には辛いものを愛用している。従つてこれらはどんな田舎の農家にもみられる代表的なものである。

○ その他の農作物

これはラオス人というよりはむしろ山岳民族といわれるメオ族、ヤオ族、ヤー族等が中心となつて標高八〇〇～一、〇〇〇メートル地で地味の良い場所を選んで遊牧の民の如く点々としながら栽培しているものである。これらは彼等の住居から遠く離れており、容易に現場を見つける事は出来ない。

しかし華僑の手によつて国外に運び出されているのである。この阿片は相當多量に栽培されており、ラオスの國の収入の重要な部門を占めている。



原野で分娩直後の黄牛の親子



筆者の勤務したラオス獸医畜産局本部



農家の野菜栽培



焼畑風景



農家の果樹園(様々な果樹が栽培されている)



焼畑に栽培されている陸稻



砂糖きびの栽培(手前はタバコの定植中)



稻刈り後の稻株